

1. 輸出における現状と課題

○茨城県は水稻の作付面積が62,500haあり、全国でも有数の水稻生産県である。県西、県南地域では平坦な農地を活かした経営の大規模化が進んでいるほか、県央、県北地域では良食味米の作付によるブランド化の取組も行われている。

○令和6年産の新市場開拓用米（以下、輸出用米とする）の作付面積は1,089haであり、令和5年産と比較して300ha以上作付けが拡大している（農水省公表 各年産9月15日時点）。

○現在、コメの価格は高騰しているが、今後は少子高齢化によるコメの需要減少が見込まれている。そうした状況の中、輸出用米の生産を強化し、国外にコメ販路を広げることで売上・収益ともに確保することが必要となっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産面】

○2024年度GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクトに取組み、多収品種である「ハイブリッドとうごうシリーズ」の低コスト栽培（湛水直播（ドローン活用）、乾田直播、再生二期作）の実証及び導入を進める。

○輸出先国の残留農薬規制に対応可能な防除資材の検討を進める。

○食味や食感において輸出先のニーズに対応できる品種の導入試験を行う。

【製造面】

○GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクトを活用して、新しい無洗米技術の導入による品質保持の実証に取組み、将来的な導入可能性を検討する。

○製品パッケージ等に炊飯方法を記載するなど、現地で美味しく消費できる方法の情報提供に向けた検討を進める。

【物流面】

○2024年度にGFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクトに取組み、米以外の品目との混載や、常陸那珂港の活用による輸送コストの削減を実証する。

○無洗米加工により、品質保持と併せて、フレコンバックを使用した大ロット製品の輸出に向けた検討を行う。

【販売】

○輸出先が求める品種やパッケージのニーズを的確に捉え、迅速に生産に反映させるために、輸出米の実績を有する（株）百笑市場と連携し、海外の輸出先への直接輸出を進める。

○（株）百笑市場の営業網を活用し、これまで日本産米の輸出が進んでいなかった地域への輸出先を開拓することで、他県の国産米との競争回避に取り組む。

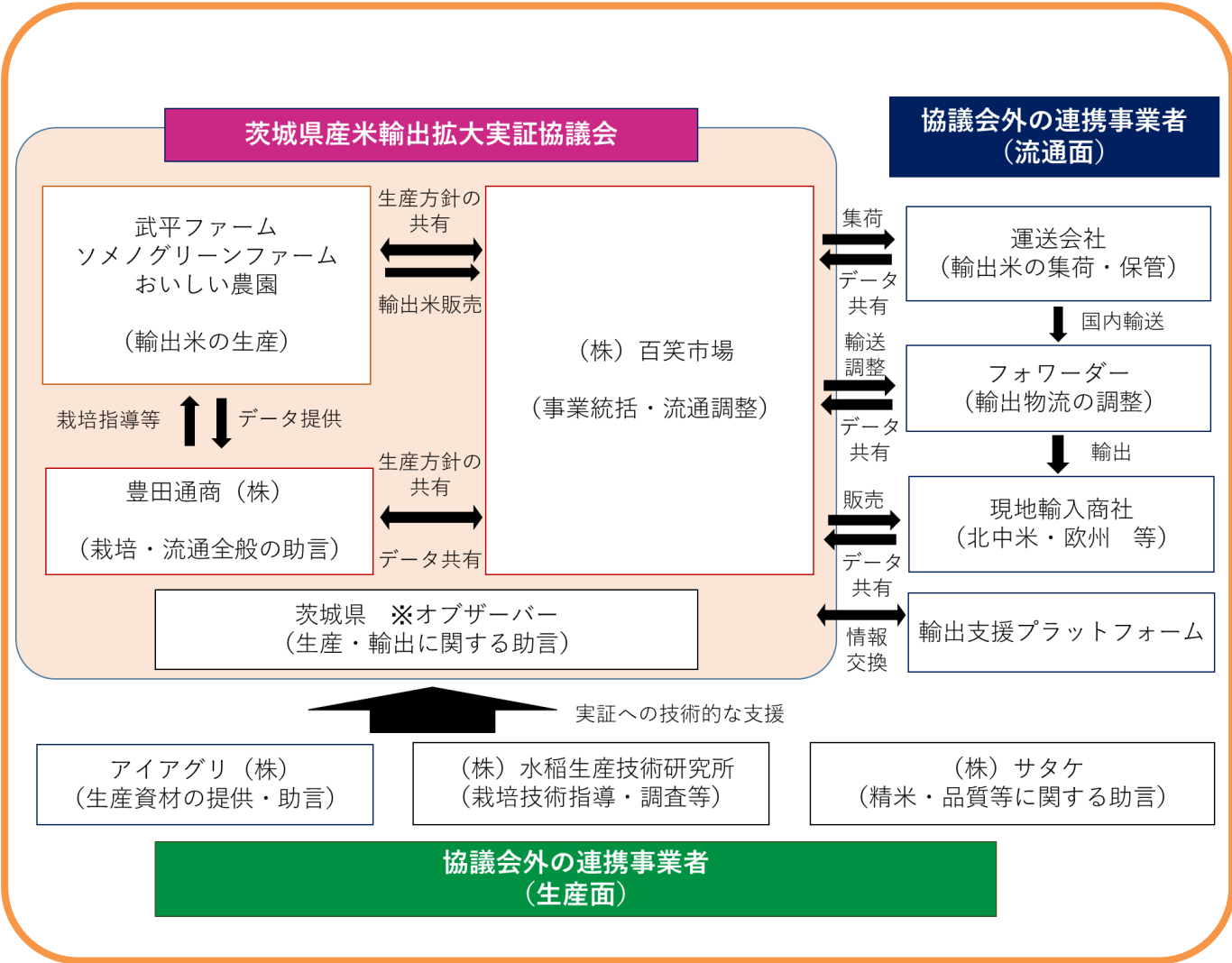


ドローンを活用した湛水直播栽培



乾田直播栽培の播種機

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和7年3月期見込)	目標年 (令和10年3月期)
輸出額(千円)	27,000	32,000
輸出量 (kg)	137,810	160,000
輸出先国	アメリカ、EU	アメリカ、カナダ、EU
取扱量 (kg)	137,810	160,000